

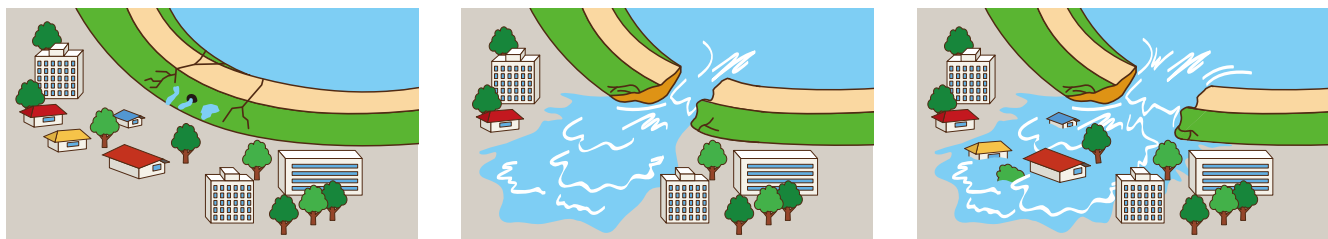
## 水害(備え)

水害・土砂災害(大雨により発生する災害です。)

### 水害が発生する仕組みは

#### 洪水(外水氾濫)

堤防が決壊して起こる水害です。



川の水の量が増えはじめます。

水が増えると堤防が崩れやすくなります。

堤防が決壊すると、家や車が押し流されます。

洪水は河川の上流で降った雨によって引き起こされます。三川合流の地である大山崎町では、桂川、宇治川、木津川の上流域に大雨が降った場合、たとえ大山崎町の天気は回復していても危険な事態となります。平成25年の台風第18号襲来時は、大山崎町での雨が止んだ後に桂川で最高水位を記録しました。

#### 浸水害(内水氾濫)

道路側溝や水路の水(内水)が排水できずにおこる水害です。

道路側溝や水路の水(内水)が排水できずにおこる水害です。  
※町では、内水を強制的に排水するためのポンプ施設を大山崎と下植野の2箇所に設置しています。



桂川と中河川の水位が上昇します。状況に応じて排水ポンプを運転し、桂川に雨水を排水します。

桂川の水位が、一定水位を超えると、雨水を排水できなくなります。

内水はん濫が発生します。

桂川や小畑川・小泉川で堤防が切れたり、堤防より水位が高くなると、さらに被害が拡大します。

#### バックウォーター現象



支川の水は、通常本川へ流れています。

しかし、大雨で本川の水位が上がると、支川の水が流れず町にあふれます。

## 雨の強さと想定される被害

雨の降り方から被害の予想ができます。雨の降り方に注意し、警報や避難勧告が出る前でも、危険と判断すれば避難などの準備をしたり自主的に避難することも大切です。

【雨量は1時間雨量(ミリ)】

<p>10~20ミリ</p> <p>やや強い雨</p> <p>ザーザーと降る</p> <p>この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。</p>	<p>20~30ミリ</p> <p>強い雨</p> <p>どしゃ降り</p> <p>側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のけがれが始まる。</p>	<p>30~50ミリ</p> <p>激しい雨</p> <p>バケツをひっくり返したように降る</p> <p>山崩れ・けがれ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。</p>	<p>50~80ミリ</p> <p>非常に激しい雨</p> <p>滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)</p> <p>マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。</p>	<p>80ミリ~</p> <p>猛烈な雨</p> <p>息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる</p> <p>雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要。</p>
---	---	---	---	--

## 風の強さと想定される被害

風の強さと吹き方(平均速度:m/秒)

10以上~15未満	15以上~20未満	20以上~25未満	25以上~
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けない。転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。」	立ってられない。屋外での行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

## 台風の強さと大きさ

台風の大きさと強さの目安

大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

### 風水害への備え

- 側溝、排水溝の清掃を行い、水のとおりを良くしておく。
- 鉢植えや物干しざおなど、風で飛ばされそうなものは屋内へ取り込むかしっかり固定しておく。
- 屋根、窓、雨戸などの点検・補強しておく。土のうや止水板など水の侵入を防ぐものを準備しておく。
- 浸水に備えて家財道具は、出来るだけ高い場所に移す。

※雨風が強まってからの屋外の点検などをするのは、危険ですので、早めの対応を心がけましょう。

住宅が被災した場合に備えて災害保険に加入しましょう。詳しくはP23をご覧ください。